

週刊



宿泊・旅行業・運輸・自治体(観光全般)

ちよん監理事長モノ申す

地方再生・創生論

60



大日本猟友会の佐々木

認識する。

猿が都会に出没した。由にもよう。都会で人猪が高校に潜入した。熊と野生動物が共存する外が鶏舎を襲った。こんな国の例は枚挙にいとまがない。ニユースは珍しくなく日常のものとなっている。おそろく、この野生動物の棲息する山々に餌がなちそうになった。ヒレサク、人の住む地にまで降りて来るを得なくなつたに違いない。開発が進み、動物の生息環境が悪化しているに加え、動物保護運動が徹底されたため、異常に繁殖した理

獣害対策を考える

洋平会長とは20年来の親友である。話を傾けられてはいるが、被害額は減らない。愛護団体の存在価値は認めるが、年間200億円を超す農作物の被害がある。あらゆる野生鳥獣の生息数を減少させる必要がある。さて、地元の猟友会の会員の皆さんの協力を得るしかないのが実情だ」と熱く語る。
狩猟免許所持者は約20万人だが、これだけの人数では追いつかないらしい。猟友会員は愛好家ゆえに有害駆除を無理に依頼することもできない。日本は銃規制の最も厳しい国ゆえ、猟銃といえど自由には手に入らない。地方の公務員、消防団員等に狩猟免許を取らす工夫をし、駆除協力者

経営

体大理事長、松浪健四郎